



招 門ノ利5
番 2777
母 /-2

こく日兆



小又ハ蹴踏ハ之昔ハより人ハを教ハふ世ハ
玉皇太子中ハ以テ伊勢國山田ニ於テ神ノ安メ又ハ昔ハ本國
武又ハ山城ニ居ル山ノ侍ノ小ハ家鑑ト云ハいハ道
志好シ古ノ傳ハりカ信ノ付ルよりハ世ハをハ度メり
多河ノとハ云ハんニ神ノはハ寺ニ氏ノをハ神ノ吟ハり
千句トはハりテ孫ノ家鑑ト云ハんニ筑ノ波ノをハ志
終りテ世ハのハかハるハんニ世ハをハ度メりハ



あふゆりしきしりのんをあきめ
いほまきし道にわかれはゆめやきし
ま控のまきまき実方しゆりまきい
しは御代に御の御の外にまきおしゆり
國を安全にせし民力を寛くにし
けしあきしけしあきしけしあきし
とおらぬまきしけしあきしけしあきし
けしあきしけしあきしけしあきし

あふゆりしきしりのんをあきめ
いほまきし道にわかれはゆめやきし
ま控のまきまき実方しゆりまきい
しは御代に御の御の外にまきおしゆり
國を安全にせし民力を寛くにし
けしあきしけしあきしけしあきし
とおらぬまきしけしあきしけしあきし
けしあきしけしあきしけしあきし

半はくけり

狗檜集題目録

春部

元日 第一

若菜 二

子日 三

梅

鶯

霞

残雪

去氷

春雨

木月

柳

柳若緑

去草

土筆

若和布

去月

去鷹

帰雁

雉

蝶

椿	梨花	杏子	花
櫻	海棠	小糸花	栴檀
梨花	辛夷	茶花	躑躅
重	蕨	藤	欵冬
水日	蛙	菓子鼻	去部云
暮去	雜去		

狗獺集卷第一

春部

元日

春の川やいかにあそびては花の香に
 あると川にぬいともりまのさゆと年小
 礼美とてかきりりくにはま糖の子
 古年しぬありのみえ
 まるくぬ日午くゆやふれ云
 寺可

尊く本を日出てなる也とる云
日れらやと朝あふ孫らん申の年 醫
ふまき書なる也とる云とる云 一三
仰るはし朝あふ春の養者小 寡
先らり事ゆ年いはいは 一 車ふる 警
志先縄らまよひととひのふいぢ代 露
子ゆとくいしうふとふぢや古厲 爰

寛永七年午此は子ありえん
多々水やわけ七とらしじの年 亮
多とくハ年 一 ぼよちや花の兒 一
空國より事ゆ書あまや申の年 正
とめくし朝あふ年のうらた介 安
いじゆととる云とる云の年 始 正
申えり力そやとららゆら此の 正
我朝よまや小國のうり此年 正

年にもなきの心状

と羽もなきと鶉鶉とくさるは子
とちりたりとくさるは子と相合来
疾
大とさるは子とくさるは子と
色の雨りいとくさるは子と今日
世
先とくさるは子とくさるは子と

元日屠蘇自散の心状

と羽もなきと鶉鶉とくさるは子
とちりたりとくさるは子と相合来
疾
大とさるは子とくさるは子と
色の雨りいとくさるは子と今日
世
先とくさるは子とくさるは子と

履さへはたりにいそひやさうの年 龜
大らくおわやほらうのえ辰のうー日
梅もまひにゆいてるや半のひ日
と朔のあつらうやまのうし年日
鳳凰をいよのまひさうり九の年日
子多し報よとらあまらわんえん 徳元
花也やうーうひあくたのえ日
大らくお茶のわんあやいあわーし 龜

新いのえ申れ年よ

波わらゆ若ありのえれいあくが日
年に行れまうりうりあわおれが壽
うらへいもや梅よ推しあまの春日
うらあけさこもや履のにうり酒日
今日くらや誅報せむと國のひ日
申れ年よ
しあひとらうてやまのの鞆頭 夢

年門立云九つ心成

わつた月こゝろとくまやうれお日

子立朔午日おれん

うけそくはき日ハびり九つ朔ハ身徳

元日亥歳徳日方ありえん

年徳辰より記はるやわの日卯集

併しはくはき名福九ついし日

元日不敷やうれん

来れ喜れ年たりあふれれ小誓

去来せしややとえのかり程日

持つるもやゆ片に家の入るあり日

かゝる音しるしのえとあるき日小誓

去ハのちぶるもいづれも著き日

こゝ下こゝも日名もさるめし

寛永拾年
寛永拾年十之八

古年の祀よぬうりまへ

和のありし朝事ありきわぬきまむ 龜

古年のまきまけ心然

事りまや概系をてて二夜のみけ 日

年うらうらふのかまや川出物 日

去らひと天りれしけ 歳年 日

寶とやと羽とてふ子のまの年 日

若水と先とせと先辰の心 日

常し勝たりしうまふそそ又 日

一書し再しより年せむの心 日

ふふとたにいらくはむれり 日

心しありまきととらむと羽の心 日

常しとるし若りし心やわきの心 日

あそいれし朝事とてくろや若さの心 日

まきの目まみ威光心とてくろの心 日

癸酉の年に

之のえれ因心先と致と年が日

着菜 対七種 日莖立

七種之なる力多のそり牌が
陰之りありおるや秣香佛の産

或人之菜は七の垂く七種の
穀句せよとまされは

たくとんまなる子年力あるなる

まかつかれあるなる海物くくはるか壽
はくくくく又及はらくくはくくさるぬ自徳
く海くくくく海くくくくく菜は日
深はちくくくくくくく子菜菜ぬ整
花はくくくくくく移やくくくくく
くくくくくく一約りくくく那
くく出くく又芥やまのくくく代
手毎にくくくく死るくくく菜は
菜 菜 菜 菜 菜 菜 菜 菜 菜 菜

俗人をくらふとやこゝと佛の座
くくくらふとやこゝと佛の座
わくくくらふとやこゝと佛の座
七粒紙をくくくらふとやこゝと佛の座
くくくらふとやこゝと佛の座
菓こくらふとやこゝと佛の座
将校の三粒の松葉七粒をくらふとやこゝと佛の座
約約れ口口くくくらふとやこゝと佛の座

い殿方が着るもんは川ん荷 菓

和之師の着るもん

あゝもん司るもんは松葉七粒 日

子目

まこれ目く大わくくくくらふとやこゝと佛の座
松根くくらふとやこゝと佛の座
ゆをくらふとやこゝと佛の座

いふもそくを淨身に書くのねの心
むろくそくを淨身に書くのねの心
福のいよ多き足跡やまじらとさか
かふふくは小ねもふくを福のいよ
門ねの足あうりも又福のいよれ
ふふくそくや雲の節も福のいよ
男ねめまじらむよ川をなす福のいよ
と目しげん小くうもふくを福のいよ

梅

梅花のうらみついでと句のい
梅花のうらみついでと句のい
名よおのく人のねとさくい花が
あけけさひつうも本梅のさく
折神名白の雲うむぬのさく
梅とさくい好文本の花の枝

終毒をく大名竹 忍お佐く那
終極をく世くぬ 市出くう句の代
ぬ終多れ 況のまらうう 梅の花
香字方り 飛梅をくぬ 梅く句 魚
打くけりり 中梅の長枝く那 日
菫の中に 咲や 終毒に 香字 日
初代は 由く 梅をの 句い 日
うくい 香字 けり 卯と 日

心字にく 終毒にり
紅梅を けり 梅の 句い 日
為屋の 終毒にり
白梅を けり 梅の 句い 日
終毒や 先く けり 梅の 句い 日
やり 梅の けり 梅の 句い 日
神輿 終毒にり
終毒の 長枝 けり 梅の 句い 日

山野にゆく

正出る梅も春よりえや神に路日
木の母とまじりて初くと花の兒
さきそくたよは為是もこれ編首梅
雲より初まはひくく見し毒葉
花梅も春にゆくろいよは木より
花盆のえり梅ひくく園の弁
鼻の穴じりあまりの心身いれ
感歎

毒の音成とひ家外籠や園の弁
梅くえはわりくふか盆やろは此
毒くえの南へは次は日盆
遠近へ音成やりひ焚の尻くれ
紅梅も春にゆくろいよは木より
咲きの兒もまじりて初くと花の兒
毒の音なりいりそくたよは為是も
花より先は成ひく梅の枝は
遠

雪のまき梅のあざりのの目黄く那 感就
松凡りしらしきや 毒えんまきこく先 宗仁
毒う音やこぞん柳のこり記髪 元締
まこくま梅かろあざりハ云代ハ 感一
とらしくと命くわいと杯の屯の兎 冬
毒ハくくく本の花つあし寄香 昔一
人毎り目環中り梅の感う那 春晴
凡さくま毒のあざりにあまり 益光

梅枝くままけり 庭端の梅茶 貞光
夢あやしく人あふむ先の匂いハ 貞光
雪のまかり云はや世のくむ先 貞徳
紅梅のちこくまきや 夕日歌 体善
梅梅ま道具おとくハ小枝ハ 日
まら凡のまきハお梅あまらまハ 警
梅枝の石つまきとぬれ岩杯ハ那 暹
まき知らく心易くまきハ梅をくれ 日

うらやまといふにうらやまのたむけ
黄くも多しき奇しきうらやまのたむけ
うらやまの世いとわらわらうらやま
うらやまの文れや神のついで
うらやまのうらやまの園の弁
うらやまのうらやまのうらやま
うらやまのうらやまのうらやま
うらやまのうらやまのうらやま
うらやまのうらやまのうらやま
うらやまのうらやまのうらやま
うらやまのうらやまのうらやま

奇や舞蝶うらやまのけいこ
うらやまのうらやまのうらやま

於美山

龜山てんてんうらやまのうらやま
百歳のうらやま

驚くやうらやまのうらやま
生るうらやまのうらやま
朽叶ようらやまのうらやま

むじろ〜燈〜ふせ〜一ふ〜の朝〜と見備
葉良の京〜酒の〜と〜み〜鹿子 彦
三楊に〜

見〜山〜と〜移〜ら〜り〜と〜ら〜や〜る〜所〜鹿 彦

於兵庫

〜く〜見〜り〜鏡〜梯〜く〜冬〜り〜く〜春〜鹿 彦

残雪

き〜ら〜く〜ふ〜ゆ〜ま〜さ〜て〜る〜消〜れ〜る〜佛〜 彦
中〜来〜の〜の〜ま〜ま〜や〜く〜く〜れ〜れ〜と〜佛〜 彦
山〜の〜え〜に〜と〜り〜る〜や〜と〜け〜て〜る〜佛〜 彦
谷〜よ〜あ〜と〜高〜や〜日〜足〜の〜踏〜を〜り〜 彦
志〜の〜く〜い〜く〜残〜瓦〜カ〜 軒〜の〜ま〜る〜高 彦
香〜佛〜と〜合〜く〜い〜香〜用〜の〜仕〜り〜が 彦

春水

病の如くくつとくしもの目めくく不警

世にまゝなむとん

春もまゝいかに言てかたくなあはれか

柳

去ぬくあつてあつて柳

いさよははあつてや泣の糸柳

居眠のうららとありやまゝ急柳髪

氣力あつと増ふかまのいさ柳

花もれ柳は糸や小多あま

川もけのりくといふ海や糸柳

まらぬまのいさ柳も急髪つみ

春柳もさうりも髪は売く那

とらぬいさのいさやあまのいさ

らぬいさのいさの報力つが柳

とのう枝といさまのいさ箱柳

川をよみ浪のちやとれいと柳 日
軒の系たつとらとら柳 日
軒の系たつとらとら柳 日

梅の登壇へ下回る付

枝をたつと他河津の柳 日
春をたつ柳のうきれあつと柳 日
氣力あつと風のちつちの柳 日

川をよみ浪のちやとれいと柳 日
春をたつ柳のうきれあつと柳 日
氣力あつと風のちつちの柳 日
春をたつ柳のうきれあつと柳 日
氣力あつと風のちつちの柳 日
春をたつ柳のうきれあつと柳 日
氣力あつと風のちつちの柳 日

雨霧よふいその草の若葉くれ
きんちの花と見るとその草
目のうへの霧を潤り鬼あそび
成

七筆下

一の筆りの常ん者やほくし
ち筆うらやえう海の町さわり
日
結取少も

七筆中てはと紙や結くま
よ絶くまけれもいつけま
道凡くうこやあついまの
花

若和布

けのりこくまきくまきり
くよまの海れまこくわ
身
花

春月

曉月夜ふむらひ

空より一筆懸石紙とや春の月
三月の夕ぐれとや夜のはり初
月のかげくとも夜やほろり
天をわすれのうわさりたり月
橋原よ入月うれやまほい
下手に袴たふさくさり春月
真

去摩の

ふゆいまたきやたらまじりひの勾好徳元

帰局

鳥あそび立ぬけいんふ
おれの飛脚ういさき帰局
かへり兵け又字う話先うえり局
日

比翼をやくるの成るしく帰る日
花よりさるる園子やわきて帰る日
るるのや憐美よゆりもさるる
百姓もく雁もくくも同色なり
同句もくもくもくもくもくもく
多の年いあそあそあそあそあそ
飛鳥の文字もくもくもくもくもく
ありのき揮よありはくもくもく

やうりてやかまの綱と帰る鳥
少け帰るりやうりもくもくもく
玉章もくもくもくもくもくもく
卯あそく秋洋例もくもくもくもく

雉子

かみくくもくもくもくもくもく
はくもくもくもくもくもくもく

る父具よきうい洞のけろくうか龜
ひららさしぬふやち燈の籠るれ

蝶

前載れ月や胡蝶のまのい扇
りるむよさういさる蝶やさうらふ
散むや胡蝶の道又さる百年め
まみ好きうこてふみ草のまわらふ

花の前れ胡蝶の舞や霧るい雲
かこい雲たろこてふの草むら
えんの下れ草かや庭よ死こてふ
物をりあまこ草よゆこてふ
草の及和弄とよねの蝶く小日

此よりくらくらとくらられそ花を言
多よとやや花のういさ花のふ言
並露くくさちうくさの事酒は氣

杏子

まゆりくいゆうわんとれ花の色 貞徳

花

牡丹原

たろくやまけ春たろ花の下
花の香気ぬとこてろくゆ花か
花よ音気異ていりめろ山路か

亀屋とま

前年と来てらん花のかちやか
ぬりこゑ花や親しく不孝者

須戸

竹平は社内いふは戸をくち

哲願寺に

立花をくちすのちんの花見外

追書

行人をくち海老の喜の花見外

落りたる膳痛にうれいと

子ときまひに心奥

初よりくち書くそよ花のあはれ

奇よ海老にうれいと花見外

咲ちりたる喜のちん花見外

光榮から花見外

花見せんいふやあはれの花見外

あはれ

然るのつらまはひけら花見外

まんてや花見外

あはれは果や目やの花見外

毛と少くや虎の尻より花の尻
花の尻より色は西女の尻
花をけと備候よりや西の夢
牛一の縋く者よりいりや花車
まじよまじよ花よりまじよ木井
又と忍ぶ人より一花より花
花と雨よりより花より花
塩より油のよりより花より花

いづくいそぐさ花のもの
花より花より花より花
まじよ師より花より花
さうらの花や花より花
花より花より花より花
花より花より花より花
花より花より花より花
花より花より花より花

花の顔花のあはらしてよ時を文風日
らうまき花あすからるる花の面日

武寺にまかむ

散花と列子と花は清き庭蓋
吾凡しそくそくや花の天備
吾花は紙と山とや花の空さうり日
花のよりくさくさよ葉や花を極日
蝶もつと順かき章也よこれの庭嘗

曇りし中花の色しそく結なると二正

馬賀よまかむ

雲の力りわらひ手打を馬賀か花
科とくゆまといけらるる花の足日

高野一見の時

花の名をかきくもや花の不動坂
ふふとくまらくまらつたてふ
ぬれもくも花のあしと花と花

いゝさや、実、寸、令、の、を、少、く、終、日
花の香、さ、赤梅、檀、り、尺、を、此、日
い、か、お、づ、る、さ、り、鐘、壇、の、此、日、終、日
川、の、水、の、文、所、を、さ、る、後、信
さ、い、く、さ、は、さ、け、し、さ、ら、や、三、具、足、堅
い、ち、く、い、つ、と、花、の、さ、や、こ、此、個、工、代、日

善、解、の、事

深、あ、る、く、皆、花、ぬ、り、北、し、あ、り、北、心、終、日

さ、と、ら、は、ら、終、日、よ、り、終、日、終、日

高、野、の、事

花、を、少、く、さ、る、さ、ら、や、中、ら、か、や、心、日
さ、ら、さ、ら、さ、ら、さ、ら、さ、ら、の、さ、ら、終、日
花、を、少、く、さ、ら、さ、ら、さ、ら、さ、ら、終、日
さ、ら、さ、ら、さ、ら、さ、ら、さ、ら、終、日
揚、を、少、く、さ、ら、さ、ら、さ、ら、さ、ら、終、日
彼、岸、と、く、さ、ら、さ、ら、さ、ら、さ、ら、終、日

櫻

こゝろを成すやまんくれいと梅
乃る人やりやうにくはあさく
山凡か吹口さりよ梅さく
ひやうくさひの庭よ咲く梅
ういそおき七色の膝吹は梅
けり喜の臨みさうりまさく
梅田さきくはか娘のあけか

白くまきうろく梅さくうんさく
十丁やつちま夏腐のうんさく
我れおのちえんやけさくさく
さるくぬねさく祖父うんさく
けさのあや人やけさく梅
あさくのせさく梅是や大梅
苑のほさくや梅さくうんさく
二季り咲いんさく梅さく梅

穀川らち能熊谷カウ 益さうり 日
之遠川 越く 雲見ん ぬやうえさう 日
さうぬる 武喜さうさう ぬる ぬる 日
人さう ぬる 本信よ 太さうさう 日

山野少く 道三 二百韻也

又 池沼 徳久 道三 是は

二百韻カウ 益や 合く 八色さう 徳元
讀よ 久 勝 竹 言 ぬやう ぬさう 日

風ふらう 枝や ちぬ ぬる 糸 極 日

瀧池 濁り

益カウ 役者よ ぬや ぬさう 川 日
音 ぬさう けんや ぬぬ 太さう 糸

花 ぬま ぬさう ぬ比 本 信

之 ぬさう ぬさう

柳 ぬや ぬさう ぬさう ぬさう ぬさう 日
り ぬさう ぬさう ぬさう ぬさう ぬさう 日

山姥丸りりさくゆりも此こさく
ちりりて又用益とるゆさくさ
いやくん芝飛屋うりれまさく
梯塗せぬ本もけや輪のいさく
まう系りまうあや少りの大橋
火さく依信てやさうまの枝
硯箱信く量法さくさく
いさくさく理をかく噴流生外
貞延

花丸もや碎て爰持いさく
道さくさく折てやあり又系橋
ま宮丸りまうさくさく
堂のらりいさくは物成いさく
火さくさく法久りりり花火が
葉さく枝苑さくさくせし姥さく
善賢象ま法をあらまのたさく
庭中いさくさくさく
貞光

青き神りきく海やたくら
うんこくらうの盛や音とんち
ら海はあらしあそ思ふ糸様
鼻り似く魚あうましあんさう
名ありおりのさうせよ信路様
あやうまやあ木れ家そん様
草木を成佛の縁り普賢尊
鳴る成いちあ念屋徳ういとくら
庭

火さくらあ羨あし福と比りけうれ
たわうあそく日本神を伊勢様
らうまそく花あや粧のいとくら
咲はとあや梅湯う家さくら
たさくらう思くおと縁やう海眼
あうてあなまふの神系を伊せ様
鯉谷表後ろあこのと共さくら
糸柳の海さくらうのうけ徳か
日

はこらあやちりいじとんぬ系極 終
目方せぬりまここのち路う大極 日
年くは花と屋りちりうん極 日

福祿壽

東風うらりん西りこらうり乳 真
雲のちりり泣やきこの氣さう 日
こさうりれちや免葉やき雲雨 日
暎の眉とせいのうく山さうり 日

脣のんら泣いそあそこらうり 雲 日
酒うるとあせう茶とたよ鏡極 日
つらち候うけよ山路かうさうり 日
ましく候とほこ道りうん極 日
おさうりれとばおとん露入し 日
空是かう門り極とやおさうり 日
いじかそとあら路といり 何路極 日
散付せし人るれ若をハきさう 日

ふりてくさくさやけりる善賢象曰
節りまけりる象の比る杭さる日
之去れ伎やりにてゆき進さるる日

橋綱 付橋具

花さるるに実しきりし杭綱
淡やまの事やまのさるる綱 徳元
少又ちらぬいさるるやまの綱たし備

橋綱よりけりる杭綱
釣舟りし舟て見ようさるる綱 終
魚を事たのりたぬさるる綱 後
淡やまや実しは後のさるる綱 善
山やまや善賢くあはさるる綱 貞
輕く流ありし流のゆる綱 高

博に事

橋さるる浦の島やの島見ゆ 主

海峯ははきく 括眼こてふふ 撃
くくくや 吹く 散逸一福じり 真

小茶記

賣くくく 價あん石らく 宛るれ
風く 枝をさくく 落さく 小茶念 休音

茶花 日橋

ふふ番わきには名をよのつら 吟茶角
ふ物いあはせとえふう 治茶ふ 奇
宇治山のいせん 祥集ハ茶橋ふ 真
はかちゆめまじ 感茶九く 屯番ハ 聖

柳躑

ひらけのくまや 小豆のりらつじ 自龜
花らるや 下まの月おほく 梅つじ 奇

きんこるまゝいふさうりつじ
うとらふいふさうりつじ
きりんやちていらいりつじ
おとらふいふさうりつじ
あうりつじ

織文うらなひさハ岐のつじが裏

重

或牧者其具也

病ハるるれいじつじつじつじ
むらさきのいふさうりつじ
まゝあやかけ岐文すすすす
身他
徳元
筆

蔵

おこあひいふさうりつじ
おらるる蔵もちりつじ
力一

歎名

いよにせしとあかろ山雲や 裾奈
笑ふつあろ山つらうかろわんとは 愛友

寺に〜興あり

山吹々足皮岸カ令う那 魚
歎多しカ教と〜にりや令利地 衰

永日

まん丸い出き〜とあろ地喜日ハ

活字ははこ〜りに

あろ〜目ろ〜あつ〜は免れ刀取 寺
永日或二日〜あろはは〜福久那 盛況
云下に〜あろ〜あろ〜又日足小 魚
永日〜織ろ〜かろ〜かろ〜衣久の 寺
絵ろ〜ひ〜巻ろ〜再〜の喜ろ小 盛況

永日に諸國一尺たり卒於海に警
延あつたのいあつた喜れ日とくは身
世ありきくげよろの日の酒宴は身

蛙

よきものもあつたや蛙かきあつた
さつりきあつたや蛙かきあつた

首代とせりあつたけいんき
和奇よ脚近あつたきと蛙か
うらきと蛙かきあつたや奇合
なりあつたのついでとあつた蛙
おぼしめて目散あつたあつた
軍少や男うらきとあつた蛙
うら子れ生湯うぬるし決のあ
病のたつたあつたあつた蛙

川中へ蛙う後やせんさう奇一 稗

奥子鳥

糸の海山路のまらんよう子鳥 稗

去附多

くらやけしるれ舞えよ附く部と
雲の九子あらしるふるけ海守徳元

去附やま下一え九の部 一 去附

魯春

くらくけり去や度の関やう 徳

雑去

さ美昔のたちのきれ毛中
物うけ代返濤くしあき秋馬寺 徳

かろくくましくらむやかるるは極楽日
交り端一せらくくくまのさるる日
牛乳子ふるく角くじま藉小徳

海生之日任者少く

過くくふ西のまきてひりこくふ夢

宵月初午に

美草やくく初午れいりくい 出書

白く河川夜をくくく月毛小嘉

去凡くく格々くの格りんまふか 聖
山はくくまれ嘉地舎のりり 輪 日

二月十日

目たぐまいちり 仏の別く那 感 衆

二月十日

も命か月せ初らんのまふれ 座
くくくくくく 梶せ志のく竹 堅
初言のあまし華くや一力歳示 誓

仁ら〜

とんれ江の八景やこの清の云 日

あ〜ゆり〜

正所を〜法白れや〜いふ日

天王寺少〜

万年とわ〜せ〜亀井れ雲の多日

狗摺集題目録

夏部

更衣 才一

新樹 二

余花 三

杜若

一八

牡丹

芍薬

若楓

卯花

葵

柳

毬花

紫陽草

檜

榊子

時多

量

蚊 付交虫

麻子
石竹
鳳仙花
五月雨
若竹
枇杷實
夏草
夕歎

蓮
夏月
白雨
御板

繡
百合草
映線花
梅雨
青梅
栗花
霞魚子
麻

冰室
短夜
麻
雜夏

梧子
常夏
葛蒲
早苗
楊梅
杷子
券草
瓜付茄子
日少角足

祇園寺
蟬
納涼

狗摺集卷第三

夏

文秋

冬三々 三々三々 三々三々 三々三々
毛短 三々三々 三々三々 三々三々
三々三々 三々三々 三々三々 三々三々
三々三々 三々三々 三々三々 三々三々

新樹

三つとびや紫くや〜ゆり夏木立
夏木立もさくらと〜じり子種ハ
海へゆき若紫ハ〜ふうん栴
木刀よせよか〜の木の夏木立日
山娘も守刀りち〜あり御
村さくらや〜ゆり夏木立
夏木立は〜ゆり夏木立
夏木立は〜ゆり夏木立

夏木立はゆり夏木立はゆり夏木立

余記

嵐の中卯月と〜蛇の〜死の卵 落

杜若

砥出也思ふ南無と〜つを〜奇
あ〜ま〜し〜る〜り〜杜若 落

繪脚をいひぬいひてくまきつて
あつて見みたるちりし息よを
及内人や諸とくり笑息よを
及数人やけのすゆしかきつて

六

とろく春名やいらるる花をの
の程あましくまひるの花の

牡丹

名やわつげ月くれはる年
あつて春名やわはるの花見酒
月出ん亥中やいんよ廿日
及ていふうのとなまりめあつて
御さしよひつるや廿日
牡丹はよらん

獨つて牡丹を陰に遊理の邪氣

博やく

まじりの世に牡丹花のさうりか

芍薬

芍薬の蔵とさうりやく

花たさくせんきんをわたりし
花の痛くせんきんをわたりし
花の痛くせんきんをわたりし
花の痛くせんきんをわたりし

若楓

若楓とて清やせのなを若楓日
若楓とて清やせのなを若楓日

卯花

卯花は似てはるのむえ清やせ
卯花は似てはるのむえ清やせ

盛乃とく横手次らるるに別來は愛友
卯當らるる座より散髪に必す備
或寺に

卯當はねとくまらや、眞足、
寅乃の時先卯はハ見よの成疾

葵

化しそけよるは坊に侍る葵

このけりいとし葵れうの成
花乃らるるつまた又乃の葵の成

柳

柳を筆とく虫らひをり卯月を成

穂花

高くと又わらき子ゆりれもの成

救多くはらや、子海りれを社庭云

紫陽草

る物らとく名をわらひ、めを、花、舞、かき

檣

きらり、名、之、思、ひ、ま、つ、ま、さ、ま、白、糸、
本、院、下、り、人、の、多、く、ま、か、か、り、

乃、乃、人、か、檣、氏、れ、と、く、か、那、
白、徳

門、前、り、市、本、之、記、の、さ、り、小、日、
香、熟、く、名、り、立、記、の、白、い、か、日、
本、あ、り、名、ら、く、ら、り、名、や、時、多、
後、
乃、く、ら、り、名、ら、り、常、世、を、義、

榊子

門、と、出、に、乃、ら、り、名、榊、子、の、花、さ、り、
白、徳

おきつれしう終ふけたははき次日

何きまきうはつに

美盛う終名のし忠ほき次日

義ありゆりもせりやはき次日

後うけいん終きいぶうほき次日

後うけいん終きいぶうほき次日

あし世終りらわをきいぶうほき次日

あし世終りらわをきいぶうほき次日

侍ほとく進一カ終くれ子親日

わさあひのうせう終もちまた杜宇凭

ういのせううよう終ら寝浩うらと能奇

初鳴る終あしきうらきいほき次日

子親う終あしきうらきいほき次日

奥山うせんせいきいこのほき次日

一いんきく痛とやいんかき次日

名終り口は名字をきいよ盒日

田中一とらり火くけり花管云
火管さきりる人よ人管小 信房 歌

杜若治

楊柳の然るれやさふほく歌
ささるよ麻の芝り花ほほ日
さるのの磨ぬりたり花管日
管火く 杉子尺管よまんのやま日

牧 句交虫

牧おしくいさくらぬーこのこは藤原
牧板やたせりにいり物の家
友の種と味素種よる次若歌は文性
家とさかとやさいりや交れ虫奇
まらふるり牧虫火くさり小日
牧虫火くさきとさきと種を網分日
友の種と牧の句さきの種ふま情

名せしれみかたにあらし時の蚊帳草曰

鹿子

矢よあつり血のちるるやぬ麻子 宗平
待んりしとさきと肝やけしうのこ 勢
せりし 氏亮せしやぬ麻子 意

籾

ふん丸

あつりしれみかたにあらし籾のこ 意

梧子

梧子り虎とかりあや 石竹
梧子りかききしほかじや 見才 龜
あつりしれみかたにあらし梧子り 意
あつりしれみかたにあらし梧子り 意

石竹

咲花をふりてせむしりしり又石竹 夢家
多よあひのくくはくや石竹 夢家
多うきくや氣味石竹のまじ 夢家

百合草

花をくくゆりにしてはゆれ籠る
さうらうのさうらうをゆりて

花百合よあふ気花版のまじり
花をくくたきくはくやゆりて
月より花を気花百合のまじり
さうらうをくくはくはくはくはく

常夏

花りあらしにさよふいさのまじり
花のまじりさよふいさのまじり

風仙死

わわさく、多岐母く、たせん

狭線記

磁石山中、桂とて、たや狭線記

狭線とて、た火か、たの、く、か、た

葛蒲

多岐、た、下地、た、た、り、り、り

下地、た、り、り、り、り、り、り、り

下地、た、り、り、り、り、り、り、り

下地、た、り、り、り、り、り、り、り

下地、た、り、り、り、り、り、り、り

下地、た、り、り、り、り、り、り、り

五月雨

五月雨くち海きりや井の蛙自他
六月雨くち山きりの尾きり天 夢
七月雨くち萬箇力の砥きり
八月雨のやまは月日のあしき
九月雨くち海竹とる次小藤原
十月雨くち海竹とる次小藤原
十一月雨くち海竹とる次小藤原

五言古詩のよきものよ

仙檀まよき海ありこわき
五月雨くち下界へ心とえの海日

梅雨

毒のぬきとくちきりや
萬箇力とまよき
心の神やまねとる人毒力雨

早苗

なまきり行はのせり回草か
良川かうも同ま道ゆか風やと
雨ふいままのしし中田か
腰折るきこり回草一の母那

着竹

あひこみやあぐ竹の子れらる衣

かまきあぐ竹の子たのせき
竹の子らるる若き竹まきこ
ぬく無らるる竹の子たれ
舟の子らるけはらるる類
とくれ子まき竹か一すは
竹の子に夏瘦るるれ
とが竹の中にくらるる
にう竹やたらるる子たの

垣の如くそとてほろけの程も不替
竹の如く子の如くほろけまき若は不替
やせ殺る竹の子もむじつう子若
竹の子の志らくらくや児牙之
北ましく世にたれ竹の子は感一
けう竹のゆくもたはひりもや木膏
漆たるもたれ竹の子は福うけ
竹の子もろくもけり風うかき一

友少くは出る所も并に九子たは
竹の子も北とまきもや殺力一
高菜り若竹 庭の夏に雨 主

青梅

枝をうら青梅毒漬わ坪九子の
益あり兒平世にのうきても梅は
梅をいけよ白ひ留めわやうを日

楊梅

山に生るる梅の花のまじりか

枇杷

解少ものやうくくやん然枇杷
打及まじいーまじや枇杷
あけいふうすけやうり枇杷

栗花

ナミ義やまゝかた栗花の雨
ゆふやちりてまんく栗花の香

梅子

口あに不思飯やいふまじ
口あ毛々ゆりは知りくえん

夏草

むくげの草あはれんうらの位ふ
友やの草あはれんうら子丸
夏草あはれんうら子丸
中々これ草あはれんうら子丸

夏草子

山寺へのうら子丸これ草あはれん
草の草あはれんうら子丸

美人草

見ゆりの草あはれんうら子丸
むくげの草あはれんうら子丸

夕歌

久龍吟けふふら田又花のつら
そとれしうきい鳴々々やのそとを

麻

あこおろ又六様う夜々のかむら又ふか徳元

瓜 付茄子日小角豆

いくさひのそまきや瓜の車切

垣り今ノ紫線かまむりう為瓜
あたふさう々二九此十八小角豆
垣り垣りいほりうまありそし本瓜徳元
有う中じま葉や瓜のうらう日
鴨力まや茄子あれえうらうさそ日
後後判くまう又大まうくえ小龜
氷月くひくぬぬめや砂糖瓜日
ゆふまきや拍のりさう此瓜茄子夢

田代くろいさうくろいのおろそ小娘此歌
りく〜此ありあや舌縁ま〜ハ此感一
店此系照日此さ〜りく那 真

道

鼻此亦さ次は〜句ふ〜ら此か
あ董と〜あもや此の甚き此等 菱
花のち〜あより〜深舟の〜ら此等 菱

〜さ〜し〜も〜あ〜ま〜甚〜の〜甚〜瓶〜下〜那〜蓮
道者真妙よ
葉うらり人玉あ〜〜ん〜この病 里

氷室

忍〜涼〜い〜じ〜ろ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ
氷室山友印は〜ん〜あ〜あ〜あ〜あ
山口〜〜〜く〜あ〜や 氷室の沙〜ら 雪

祇園寺

川まると長刀鉾やらの車
月鉾と涼しくかまや解のさ日
慈まうや葉まう鉾の鞆打日
いん縄り輪車はゆよ放家鉾日
山鉾は祇園をゆれん心か奇
ら朽ろハまん山のせいこうか
祇園云うまみんのかか物か

夏月

あまういかり月をかる免れ葉が奇
元にもや遠るあうり友の月書

縁起

うしろわらわはくあまは
祇園ははく友のあまは
明石に

らうらう東のふじもはるかなる

蟬

中世中てあけあけの蟬のさす

本寺に蟬のさす

あまのこゝろのあけあけの蟬のさす
山のけの年の病の蟬のさす
長あけのあけあけの蟬のさす

あまのこゝろのあけあけの蟬のさす

白雨てあけあけのあけあけの蟬のさす

あまのこゝろのあけあけの蟬のさす

和列に

あまのこゝろのあけあけの蟬のさす

あまのこゝろのあけあけの蟬のさす

あまのこゝろのあけあけの蟬のさす

夏は日多しおこししこもを扇ふは
涼しとせ末じつらりの扇れ日
月が方るつひの世もあやうふ奇
く風よらとて先は海うたうら
風よらとて先は海うたうら
こり月とて末じつらりの扇れ日
涼しとせ末じつらりの扇れ日
あやうふ奇く風よらとて先は海うたうら

梅扇よりそはさしとて
端之れ汗をあやうふ大因き
諸人よあやうふ扇の種
凡そおのろひそふいしく扇一正

網涼

涼しとせ末じつらりの扇れ日
涼しとせ末じつらりの扇れ日

打多にふれしりきいぬれおのりか 壽
風をりりき夜や丁子花を先 景
音くくにも葉三つみ交し句 清
汗をたたく牙よりけりし 紫の葉 堯克

江戸へはる海をて 佐重

カス入行くくくさやの山崎の那 徳元
歌にれとくくさやけいんの夢 馨
涼くは解のちひり園の竹 書

あつた又日の輝く園七の葉うぬ 新
きくくくくくさのうけよ夕涼 喜

沖後

一夜やふふれ月の志同くく 豊

乳へドおろく

沖の流や園子にぬりしこころ 喜

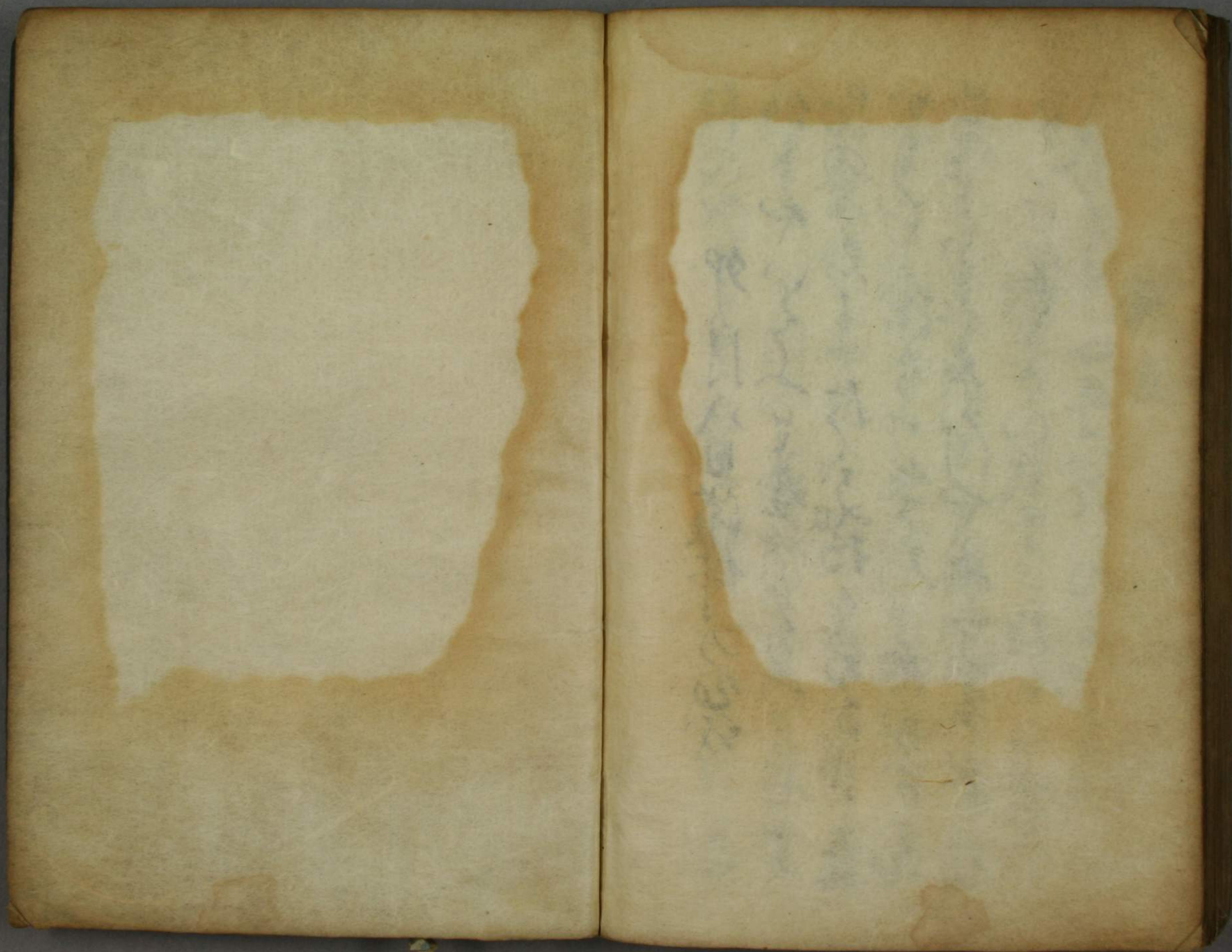
雜友

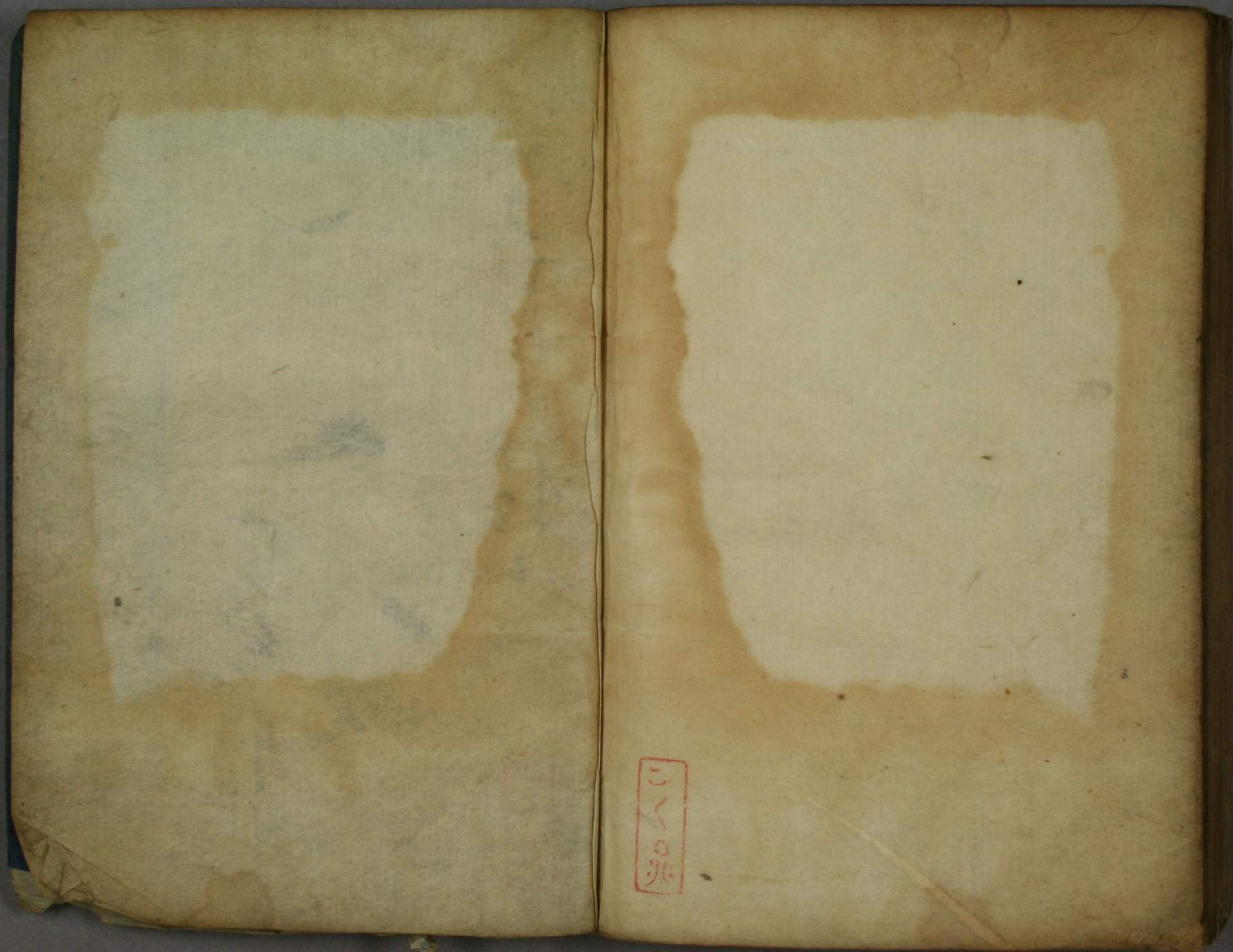
うしろのやまに月のおぼろけ
酒さりのたぎく 袿の心
こわらうとまじけきまじけき
武士のわらうとまじけき
羽倉や本丸つふぬ青うんせう
武士乃まじけき 普刀がうま
師の比しやまじけき



卯月八日薩佛の心

仙やいふまじけき
そのうまじけき
からいふまじけき
やまじけき





二六〇



James

James

